

先端産業振興への動き活発

京都地域における産学公連携はさまざまな分野にそのすそ野を広げつつある。京都府や京都市など行政のほか、大学や支援機関などが協調し、京都経済の活性化につながる先端産業の振興や新産業創出への動きを活発化させている。そうした最近の事例を追った。

再生医療の事業化支援

KRP

京都リサーチパーク（KRP）は7月4日（月）にライフサイエンス・イノベーション「再生医療サポーター・ビジネス懇話会」@日本橋を開催した。KRPは2009年

からモノづくり視点で「再生医療サポーター」を界面活性剤としてのライフサイエンス領域の産業化を目指す「再生医療サポーター」を運営。一方のLINKJは16年6月の設立以降、ライフサイエンスに関わる交流・連携事業、育成・支援事業を展開し、新たなライフサイエンス産業の創造を目指す機会を提供している。両者は今後、再生医療などライフサイエンス領域のイノベーション創出を展

開していく考えだ。今後、さらなる活用拡大には量産化がカギを握っており、産学連携から産産連携にカジを切り、ビジネスの基盤づくりを進める。電気制御機器を主力とする不二電機工業では、産産連携を積極的

課題解決へ大学研究後押し

産産連携で新展開も

サイエンス領域の技術革新を目指す企業の支援を始めた。イベント開催などを通じて企業の人的交流を促進、再生医療などのライフサイエンス領域の事業化

エマオス京都（京都市右京区、石塚紀生社長）は04年3月の創業。この間、新規高分子多孔体の応用展開を

続けている。中でも、ポリマーモノリスは発泡体のように独立した穴ではなく連続した貫通路をそれぞれ独立制御できサイズの均一化が可能である。これらの特徴を生かした製品開発を行い、液体クロマトグラフィーのカラムに使用することで分析感度向上や溶媒使用量低減につなげている。

最近では貫通型多孔粒子を開発し、本格実用化に取り組む。貫通型とするにはいかに粒子の無孔表面を取り除くかが課題であったが、辻井敬巨京都大学化学研究所教授が研究するリビングラジカル重合で作製したポリマ

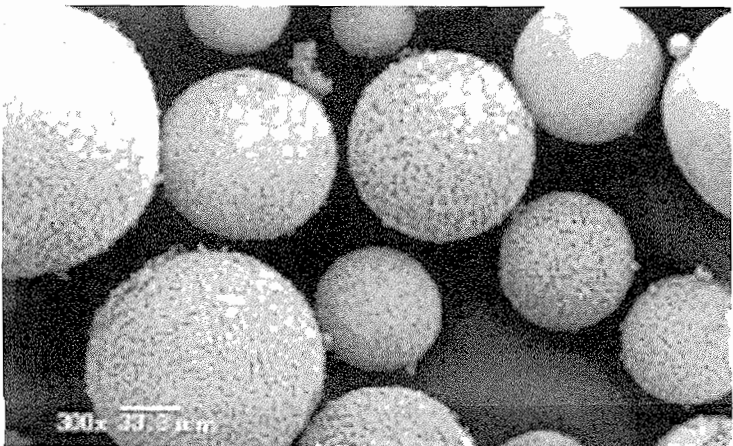
「可視光通信を活用すれば、変電所や発電所などの制御盤の扉を開けることなく盤内のさまざまな情報を取り出すことが可能になる

か、電波が使えない場所でも影響を受けないため、新たな展開が期待される。不二電機工業のみなみ草津工場（滋賀県草津市）で実

際のモデルをつくり、さらなる検証を進めていく。

協調を加速

産学公連携事例②



エマオス京都が開発し量産化に取り組む「貫通型多孔粒子」